

MonotaRO の急成長を支える本社機能を備えた物流センター



「広いなあ」。2006年、初めてGLプロパティーズの『GLP 尼崎』の施設を見たときの第一印象を率直に語るのは株式会社 MonotaRO の瀬戸欣哉代表執行役社長。「各フロアに多数のバースが設置され、敷地スペースを2分する形で、フロアの中央に車路が通っているGLP 尼崎の広いスペースを見て、思い描いていたものとは違う部分もあったが、自由にレイアウトが描けそうという印象をもった」。

MonotaRO は製造業・自動車整備業・工事業など工業用間接資材の通信販売を手掛ける業界最大手企業。2000年に設立以降、通信販売という業態を用いることで無駄な営業コストを省くとともに、一物一価を基本に、取引量の大小にかかわらず、安価での販売を行っている。また、売れ筋商品だけでなく、顧客ニーズを的確に捉え、一般にはあまり取り扱っていないようなロングテール商品を幅広く取り扱っている。



2007年3月、これまでの3,300㎡の床面積を持つ施設からワンフロアで24,000㎡のスペースを誇るGLP 尼崎の3階に物流センターを移転した。「移転した背景は、商売の量が増えたから。毎年順調に成長していることで物流量も増えてきていることから、一箇所に多くの在庫を用意できる施設が必要になった。ただ、24,000㎡はさすがに広く、移転商談中はスペースが余ることを想定していたが、実際、移転した時点では、ほぼスペースを使いきるだけのメドがたっていた。逆に、この広がり機会とし、今まで倉庫が狭いがゆえに扱えなかった商品を扱っていかうという営業的な判断を行った」。設立後10年を経た現在、MonotaRO は50万を超える顧客ユーザー、年商150億円に迫る企業へ成長している。

広さ、コスト、立地条件で選定、利用を経て高機能を実感

新しい物流センターの選定に際しては、「3つの条件を掲げて移転先を探した。1つ目は、広さ。当社はロングテールビジネスを掲げ、お客様の多岐に渡るニーズに迅速に対応できるよう、より大量の商品を在庫して、それらを出荷するというスタイルをとっているため、十分な在庫を確保できるスペースが必要だ。2つ目は、コスト面。広さを追求してしまうと、敷地面積が大きくなりトータルの賃料が高くなる。かといって、賃料の安さばかりを重視してしまうと立地条件の悪い場所になってしまう。そして3つ目は、アクセスの良さ。アクセスの悪さは物流の効率性に影響するだけでなく、物流センターに不可欠な人員確保が難しくなってしまうため、従業員が通勤のしやすい場所を選ぶ必要があった。今回、GLP 尼崎への移転を決めたのは、広いスペースがあり、かつリーズナブルな賃料、駅から近く通勤が可能というトータルでのバランスにおいて最適であり、我々のニーズに合致していたから」と瀬戸社長は当時を振り返る。

MonotaRO がGLP 尼崎に移転して約3年。実際に利用した印象について、「10~40台の入出庫が可能なバースがあるというレイアウトで、当初は正直使いやすいかどうか、イメージできていなかったが、実際に使ってみたら、利便性の高いレイアウトだということが実感できた。40フィーターのコンテナであっても3階まで輸送できるし、トラックが施設内まで直接入ってきて横付けにし、ピッキングや入庫/出庫もできるので非常に作業効率が高い。また、柱が比較的細く本数が少ないため、在庫保管スペース

がより多く確保できて使いやすいし、風通しもよく、倉庫内に熱がこもりにくいことで、在庫管理に適した環境が保てている」と高機能物流施設の使い勝手の良さに満足している。

本社オフィス物流センターを併設、社内連携増大により一体感が醸成



「GLP 尼崎の3階スペース 24,000㎡の一部 1,700㎡を本社として使用しているが、本社と倉庫が併設できたことで、多くの利点が生まれている」と瀬戸社長は続ける。MonotaROは、物流施設だけでなく、2007年の物流センター移転に伴い、営業企画やマーケティング、ITサービス部門などの本社機能も移設した。「社員が迅速に現場の在庫状況や出荷状況を確認でき、より効率的な販売戦略を立案することがで

きる。また、当社の場合にはマニュアルでピッキング作業をしているので、注文が多い場合には人員の補充や業務サポートも可能になる。そして、最大のメリットは現場との連携がとれることで、会社全体としての一体感が醸成できること。物流センターは賃貸コストの問題もありどうしても郊外に置く選択を強いられ、なかなか本社機能などオフィスに適した場所に置くというのは難しいが、現在のGLP 尼崎の施設は両者を備えた、バランスのよい施設だと思っている」。

施設の運営面については、「他の施設との比較はできないが」と前置きした上で、「本社機能も有していることから、オフィスという観点で考えてしまうと要望は言い出したら切りがないが、満足はしている。我々の要望に対しても、フレキシブルに対応してくれている。また、施設全体でも、緑化対策を施したり、風力発電システムがあったりなど環境にも配慮された施設で、取引先などからも、きれいな施設ですねという声を聞いたりしている」。

柔軟なレイアウトで、在庫回転率に応じ50,000アイテムを管理

現在、MonotaROでは100万点以上のアイテムを販売しており、物流センターにおいては常時50,000アイテムの在庫を管理している。特に昨今では、海外向けの輸出事業やプライベートブランド商品の拡充を図るなど新たな事業展開を見せる中で、「今後、物理的な拡張は別として、まだ倉庫の中



を見てみると、棚の中で、空間として空いている部分があるほか、棚は全部埋まっているが棚の中は実際1/3しか使っていないということもあるので、まだまだ商品の置き方などで工夫の余地はある。実際に、ピッキングする人はどうしても自分の背の高さまでしかとれないので、在庫回転率の高い商品を低い棚に、逆に在庫回転率が低く、商品量の変化の少ないものを垂直方向に高い棚に置き機械を使ってピッキングするなどフレキシブルに変えていかなくてはならない」と将来を見据え、瀬戸社長は広いスペースと十分な天井高を持つ施設であるがゆえの有効活用法について、次なる検討をはじめている。

株式会社 MonotaRO について

切削工具や研磨剤などの工業用資材から自動車関連商品、梱包・補修・清掃・安全・事務用品に至るまで、現場・工場が必要とされる製品約 100 万点を販売。従来の国内市場を中心とした商品の仕入れに加え、オリジナル商品の開発や海外から安い価格の商品を輸入し販売する事で、低価格を実現している。設立 10 年にして、顧客口座数は 514, 220 人（2010 年 6 月現在）に拡大し、業績も順調に成長を続け、2009 年度には過去最高の売上高 142 億円を達成する。GLP 尼崎 3 階を本社および物流センターとして使用。

GLP 尼崎

所在地：兵庫県尼崎市西向島町 231-2

敷地面積：59, 079 m² (17, 871 坪)

延床面積：135, 989 m² (41, 137 坪)

特徴：マルチテナント型



尼崎市に位置し、大阪市中心部に近く、阪神高速道路「尼崎末広出入口」から、関西国際空港、大阪港、および神戸港へのアクセスがよく、最寄りの阪神電鉄本線「出屋敷」駅から徒歩圏内